

上川北支部だより てしお川

第78号 令和5年 12月発行

認知症ケア研修会

2023年8月26日に認知症ケア研修会がWeb(オンライン)により行われました。始めに、上川北支部長の日下玲子氏による「看護の動向」の講演があり、名寄市立総合病院認知症ケアチーム専任看護師である中渡圭太氏による「認知症患者がいきいきと暮らせる地域を目指して」の講演が行われました。

中渡氏より、認知症ケアチームは「認知症の症状増悪を予防」「認知症のある方の治療を円滑にうけるためのサポート」「認知症の方に対する円滑な退院支援」「行動制限を最小化する(拘束の最小化)」という4本柱で活動している中、改めてチームで認知症の方へ関わる重要性を感じ、一人でケアを行うとケアの難しさに直面、疲弊し、ケアの工夫が生まれにくい状況にあることを実感しました。看護師同士の連携(看一看連携)、他職種との連携を図ることで、視野が広がり創意工夫が生まれる場面も数多く経験し、認知症のある方に対し、その人らしい生活に向けたケアの提供へ繋がっていきます。

今後、困った事があれば、「一人で抱え込まず、みんなで相談」からはじめてみませんか？

困ったときほど、チームの力を最大限に発揮し、認知症のある方と向き合っていければと思います。とメッセージを頂きました。



認知症ケアチーム専任看護師
精神科認定看護師 中渡 圭太氏

働き続けられる職場づくり推進委員会研修会

2023年9月30日名寄市の駅前交流プラザ「よろーな」において、日本アロマ環境協会アロマセラピーアドバイザー・アロマハンドセラピストの山本里美先生を講師に、「ストレス解消メンタルヘルスケア～アロマハンドマッサージでこころのリフレッシュ～」をテーマに研修会が開催されました。当日はハンドマッサージを研修参加者がお互いに行い、安心感や心地よさを体験することができました。



看護セミナー

2023年度名寄市立大学看護セミナー

「在宅医療の現状と課題～これまで出会った患者さんを中心に」

2023年10月7日名寄市立大学にて、名寄市立大学看護セミナーが開催されました。講師には、東旭川の大田内科・消化器科クリニック院長の大田人可氏で、医師として診療・在宅医療に携わり、日々の訪問診療で関わる患者さんの事例を通して、その実際と今後の課題も含めての講義内容でした。

在宅医療に関しては、いざという時の入院先の確保が困難であるなど課題は多い。しかし多職種がそれぞれの立場・様々な場面で、患者とその家族の望みを受け入れ、寄り添い、叶えるために連携して向きあうことが重要であるというメッセージを頂きました。



医療安全ネットワークセミナー

10月14日、名寄市立総合病院にて「繰り返されるインシデント-求めたい対応と今日までの実情-」をテーマに開催されました。講師には臨生会吉田病院の大野敦氏、土別市立病院の宮本直武氏、名寄市立総合病院の岩淵久子氏の三方にお越しいただき上川北部地域の医療機関における医療安全対策の実際についてシンポジウムを行い、その後はグループワークで各施設の現状や問題を話し合うなど他施設との情報共有や意見交換を行ないました。



◆特定行為研修を修了した方のコメント◆

1. 名寄市立総合病院 野地 有希子



私は2022年度に小児プライマリケア認定看護師の認定看護師のB課程で特定行為研修を修了しました。取得した特定行為区分は呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連と栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連です。研修を修了したことで臨床推論などの学びを通じて、知識をもって医師に提案できることが増えました。また患者の小さな変化を捉え身体診察を行い、先を見通した実践力が身に付きタイムリーなケアの提供に繋げ尽力しています。

今後、特定認定看護師として何ができるのか、どのようなケアを患者は望んでいるのか、これらの問いに常に自律性を持って考え看護に実践をしていきたいと考えます。また医療従事者や患者・家族に対して特定看護師の認知度を高められるように活動をアピールしていきたいです。

2. 名寄市立総合病院 北川 千晴



昨年度、特定行為研修(術中パッケージ)を修了しました。現在、術後疼痛管理を行うための準備を進め、9月より開始しました。手術を受ける患者さんの術後疼痛コントロールが少しでも図れるよう、麻酔科医・薬剤師とともに回診を行い、疼痛コントロールを行っていききたいと思います。

また、手術室では、麻酔科医と協働し周手術期にある患者さんが安全・安心して手術を受けられるよう、麻酔管理の補助を行っていききたいと思います。看護の視点と研修で学んだ医学の視点を合わせ、質の高い手術医療、手術看護の提供ができるように努めていきたいです。

3. 名寄市立総合病院 菅原 江里子 がん化学療法認定看護師



私は栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連区分の、持続点滴中高カロリー輸液の投与量の調整、脱水症状に対する輸液による補正の特定医療行為を自施設で2022年4月から1年間、業務をしながら習得しました。

私は主に外来で抗がん剤投与を安全に実施し、副作用症状のマネジメント、患者さんがセルフケアを実践することや治療選択など意思決定を支える認定看護師です。

日々、患者さんの体に起こる様々な病態や副作用をアセスメントしてきましたが、もっと専門性の高い知識と技術を身につけたいと考えていました。この研修は、医師の考え方も学べ、患者さんに今、何がおきているのかアセスメントし、タイムリーな対応が可能になります。患者さんに近い看護師だからこそ、速やかに医療の提供ができるように活かしていきたいと思っています。



4. 名寄市立総合病院 澤田 知樹

私は昨年度、呼吸器疾患看護認定看護師養成課程で呼吸器(人工呼吸療法に係わるもの)関連と栄養および水分管理に係わる薬剤関連の2区分の特定行為研修を終了いたしました。

4月から主に所属病棟内で特定行為を実践しております。実践の8割が侵襲的陽圧換気の設定変更、非侵襲的陽圧換気の設定変更です。

特定行為を実践するにはタイムリーかつ安全な実践となるように全身状態の観察やアセスメント、実践前後の評価を確実に行おうと心がけています。患者様がより安全かつ安楽にその人らしい生活を送れるよう研鑽を積んでいきたい所存です。

特定行為は所属病棟だけではなく病院全体の協力があり実践することができています。患者様に必要なケアを実践できるよう、協力いただいております。皆様に感謝を申し上げます。



5. 士別市立病院 小酒井 至

私は、2015年に自治医科大学の看護師特定行為研修センターで、呼吸器関連(人工呼吸器療法に係るもの)、呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連、栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル)関連、栄養に係るカテーテル管理(末梢型中心静脈カテーテル)関連、創傷管理関連、動脈血液ガス分析関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連、2019年に感染に係る薬剤投与関連を受講しました。特定行為の定期処置としては、入院患者で気切口が完成された方の気管カニューレ交換です。また、対象者がいる場合にPICCの挿入、人工呼吸器の設定変更、動脈穿刺による採血、CV抜去や、皮膚・排泄ケア認定看護師と協働して褥瘡の壊死組織の除去や局所陰圧閉鎖療法の実施、感染管理認定看護師と協働して抗菌薬変更の相談を行っています。この他に特定行為以外で依頼がある事は、採血困難時の対応です。このような時は、できる限りエコー下静脈穿刺を行っていますが、不可能な時はエコー下動脈穿刺を行っています。

上川北支部会員数 (令和5年11月5日時点)

保健師	16名
助産師	24名
看護師	450名
准看護師	40名
	17施設
会員総数	530名

編集・発行

公益社団法人
北海道看護協会
上川北支部 広報委員会
藤原 真琴
長野 洋一
久光 雅美
石黒 由美

発行責任者 日下 玲子